

令和6年度第1回八幡市総合計画検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：令和6年5月23日（木） 10：00～12：00

○場 所：八幡市役所 5階 会議室5-2

○傍聴人：1名

○内 容：

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 部長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 第5次八幡市総合計画第7次実施計画（案）について
 - (2) 意見交換
- 5 その他
 - (1) 懇談会でいただいたご意見について
会長と事務局で調整の上、事前にいただいた意見を含め、主な意見を実施計画に掲載する。また、議事録を市ホームページ上で公開する旨、了承。
 - (2) 次回懇談会について
八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会を5月30日（木）に開催する予定。

○懇談会委員意見・質疑等【基本目標（章）ごとに要旨をまとめて記載】

【基本目標1（第1章）ともに支え合う「共生のまち やわた」について】

- 委 員：転入・転出による住民の入れ替わりや外国人の増加などがある中で、すべてを自治会任せにするのは難しい。ごみ収集など、誰もが関わる場面での地域コミュニティづくりなど、新たな取組にも期待したい。
- 委 員：自治会や福祉委員会の取組については、やらされるものではなく楽しく取り組むものであり、相互に連携しながら、それぞれのコミュニティに応じた取組が必要である。
- 委 員：自治会から脱退する人が近年多い印象。加入しているか否かに関わらず、ごみ収集等のサービスが受けられるなど、不公平感が生じていることが問題と考える。
- 委 員：町内会では、これまで定期的に公園の清掃が実施されてきたが、高齢者や参加しない方の増加等により業者へ委託することとなった。町内の方と一緒に楽しく取り組む行事と感じていたので、寂しく感じる。
- 委 員：当番制で町内の清掃を行っており、高齢者の方々は張り切って参加してくれる一方、若い世代はできる限り参加したくない傾向がある。
- 委 員：地域柄、自治会から脱退する人はあまりいないが、高齢等の理由で体力的に清掃活動に参加できない人も多くおり、消防団が協力している状況。

委員：自治会や町内会はまとまりがなくなっている。今後は高齢化と外国人の取り込みが課題となってくる。

会長：自治会の加入率は、人口減少や外国人の増加、高齢化、不公平感といった問題が絡んでおり、今後好転することは見込めなくなっている。地域のイベントに楽しく参加できる環境づくりに対する支援等も必要ではないか。

【基本目標 2（第 2 章）子どもが輝く「未来のまち やわた」について】

委員：給食費の無償化は非常にありがたいと感じるが、将来的に質の低下や量の減少につながらないよう願う。

委員：令和 9 年度までに認定こども園を 9 園まで増加させることを目標としているが、子どもが減少している中で施設数の増加を目標に掲げている点に違和感がある。

事務局：認定こども園が単純に増加するのではなく、現在の就学前施設を統合して幼稚園と保育園の両方の性質を持つ認定こども園とすることで限られた人的リソースを効率的に活用し、質の向上につながるよう就学前施設の再編に取り組んでいる。

会長：統合することによる通園時間の増加や、限られた財源の中での新たな施設整備など、様々な課題があるのではないかと。また、ヤングケアラーへの対応は問題なく進んでいるか。

事務局：ヤングケアラーという定まった概念がない中、家庭状況もさまざまであり、その実態を把握することは非常に難しいと考えているが、多職種が集まる会議などでは情報共有されていると思う。

会長：引き続き注視していく必要がある。

委員：スタディーサポート事業について、所得制限を設けることは仕方ないが、友達と一緒に勉強できる場として、対象外の児童・生徒でも一定金額を負担することなどにより受講できないか。

事務局：スタディーサポート事業は、低所得世帯の子どもへの学習支援により、貧困の連鎖を断つことを目的に実施している。対象拡大は民間の塾への圧迫につながる恐れがあるため、現在のところ予定しておらず、ご理解いただきたい。

委員：学校に馴染めない場合は休んでもよいという考え方が社会の風潮となりつつある中で、不登校の数を減らすというよりも地域でのフォローが必要となってくるのではないかと。

事務局：教育支援センターとは別に、今年度から各中学校に不登校の子どもたちが通いやすいスペシャルサポートルームを設置し、それぞれの子どもに合わせた支援ができるような取組を開始している。

委員：八幡市はいろいろな場所で様々な支援が受けられ、子育てがしやすいまちだと感じる。今後、出生率が低下していくことを考えると現状の取組

を維持していけばよいのではないかと。

会 長：子育てについてはよく取り組んでいるが、現状は対象者ごとの取組が多い。地域全体で子どもや子育て世帯を支える取組についても検討していく必要がある。

【基本目標 3（第 3 章）誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」について】

会 長：歩行者が関係する交通事故発生件数と市民スポーツ公園、運動公園利用者数は目標値に至っていないが、何か理由はあるか。

事 務 局：歩行者が関係する交通事故発生件数については、前年度が新型コロナウイルス感染症の影響で外出する人が少なかったことが影響しているのではないかと。また、市民スポーツ公園と運動公園の利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控え、運動しなくなった人や団体が復帰できない状況となっているのではないかと考えている。

委 員：公園施設の利用については、どの年代がどの施設をどの程度利用しているのかが分かれば、解決策が見えてくるのではないかと。

【基本目標 4（第 4 章）自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」について】

委 員：令和 5 年は、石清水八幡宮や松花堂庭園といった中心的な施設が改修工事を行っていることが影響し、観光入込客数が減少したと考えられる。なお、八幡市の強みは豊かな自然と歴史的な社寺であり、自然や歴史はなくなるものではないので、単発のイベントだけではなく、継続的なイベントの造成が必要だと感じる。

会 長：やわたブランド「ヤワタカラ」の認知度については、市内では向上しているとのことだが、市外での認知度は十分でないのではないかと。

委 員：ヤワタカラに限らず、市の取組の PR は、市 HP への掲載だけではなく、YouTube での発信なども含め、効果的な発信方法を検討する必要があるのではないかと。

事 務 局：ヤワタカラについては、市外のイベントでの物販や雑誌への継続的な掲載等を通じ、PR しているところ。

委 員：観光入込客数に対して、一人当たりの観光消費額は 300 円程度と低く感じる。また、インバウンドも少なく感じる。

委 員：PR 動画を作成し、海外にも発信していることが影響し、背割堤さくらまつりやいちご狩りなどにおいてはインバウンドが増加しており、一定の効果がみられる。

会 長：観光スポットに来る人の属性を分析するため、スマートフォンなどのビッグデータを活用するのも一つではないかと。プロモーションに力を入れているにも関わらず、その効果がみえにくい状況であることから、より効果的なプロモーションを期待したい。

【基本目標 5（第 5 章）しなやかに発展する「活力のまち やわた」について】

会 長：農産物の販売はニーズが高まってきているように感じる。

委 員：井手町のテオテラスのように、例えば旧庁舎跡地など、庁舎の近くで販売できるようになれば盛り上がるのではないかと感じる。商工業の振興についての指標は後退しているが、市域就職面接会や創業支援の相談をされる人の数ばかりを追うのではなく、久御山町のように移げる企業の誘致が必要ではないか。将来にわたって働きたいと思える企業が増加すれば、八幡市で働き、住む人も増加すると考える。一方で、そのような場所が市内になく、大きな課題である。

委 員：人口減少及び昨今のドライバー不足などの状況下で既存のバス路線を維持していくことは難しい。自動運転バス等の実証実験を行ってはどうか。八幡市はコンパクトなまちであり、そうした実証に適していると感じる。

【基本目標 6（第 6 章）持続可能な「安心・安全のまち やわた」について】

委 員：交通事故発生件数が増加しており、危険な箇所には凸部（ハンプ）を設置するなど工夫が必要と感じる。

委 員：ゲリラ豪雨などの降水量が多い際に冠水し、危険を感じる場所がある。すぐに工事はできないかもしれないが、せめて注意喚起の看板を設置するなど、対応をお願いしたい。

委 員：全国的に空き家対策が課題となってきたので、解体に要する費用や、京都市のように住むための改修費用への支援など、今後検討していく必要があるのではないかと感じる。

会 長：空き家の管理は、調査が難しいこともあり、深刻化しているのではないかと感じる。また、市の取組の情報発信については、様々な媒体を活用し、積極的に行っていく必要があるのではないかと感じる。